



自転車を利用される皆さんへ

令和8年
4月1日から

自転車の違反に



「青切符」



が導入されます！

自転車の交通違反に対し、自動車などと同様に反則金を納めるよう通告する、「交通反則通告制度」いわゆる「青切符」が適用されます。

対象となる行為は**100種類以上**

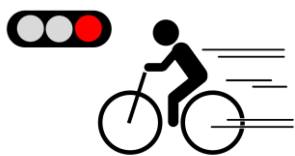


対象となる年齢は**16歳以上**



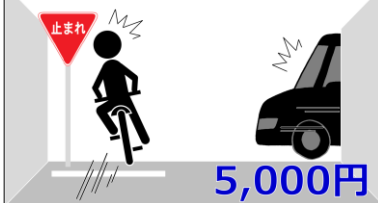
反則金額は原付バイクと同等

信号無視



6,000円

指定場所一時不停止



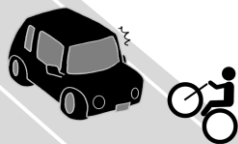
5,000円

ながらスマホ



12,000円

車道の右側通行



6,000円

並進



3,000円

酒酔い運転などの悪質な違反については、従来通り、**刑事処分対象**となり、「赤切符」等で処理されます。



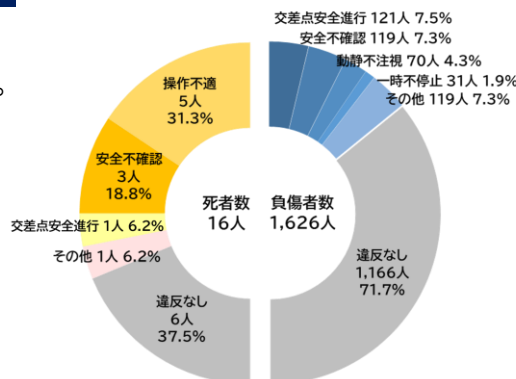
自転車側の交通違反が重大な事故に繋がる場合も！

全国的に、交通事故の発生件数は年々減少している中、自転車による交通事故が占める割合は増加傾向にあります。さらに、重大（死亡・重傷）事故の約7割が自転車側に何らかの違反行為が確認されています。

県内でも、死者の約6割、負傷者の約3割に安全不確認等自転車側の違反行為がみられます。

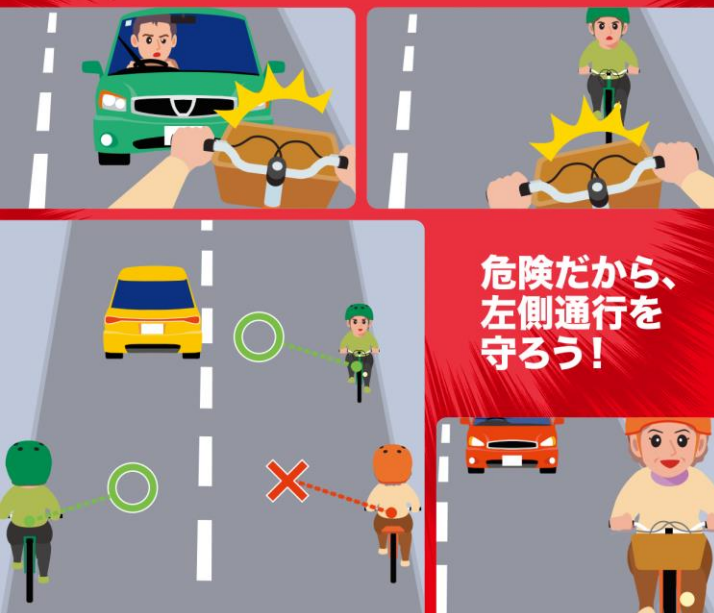
自転車利用時は交通ルールを守り、安全運転をお願いします。

自転車の交通事故 原因別 (R2～R6)【県内】



山口県警察

自転車はクルマの仲間 原則、**左側通行!**



自転車もクルマと同じ **交差点では 一時停止、信号を守る!**



自転車の交通ルール あなたはすべて 守れていますか?

**交通違反は
事故の元!!**



周囲を見ているつもりでも、実は全く見えていない

ながらスマホ



アルコールの運転への影響は自転車もクルマと同じ

飲酒運転は、絶対ダメ!



アルコールは“少量”でも脳の機能を麻痺させる!



**お酒を飲んだら、
絶対乗らない!**

自転車を安全・安心に利用するために（自転車ルールブック）の作成

資料の目的と構成

目 的

自転車への交通反則通告制度（青切符）の導入に当たり、自転車の基本的な交通ルールと警察の交通違反の指導取締りの基本的な考え方について周知を行い、自転車の安全・安心な利用を図るための資料（警察庁HPで公表）

構 成

- ① 自転車への青切符の導入の背景と手続（導入の背景、検挙後の手続の変更点、青切符の対象とならない場合）
- ② 自転車の基本的な交通ルール（自転車安全利用五則の紹介）
- ③ 自転車の交通違反の指導取締り（基本的な考え方、指導取締りを重点的に行う場所・時間帯）
- ④ 青切符以外に、自転車で交通違反をしたときに受けることがある処分（自転車運転者講習、運転免許の停止）
- ⑤ 自転車の交通ルール

自転車の基本的な交通ルール

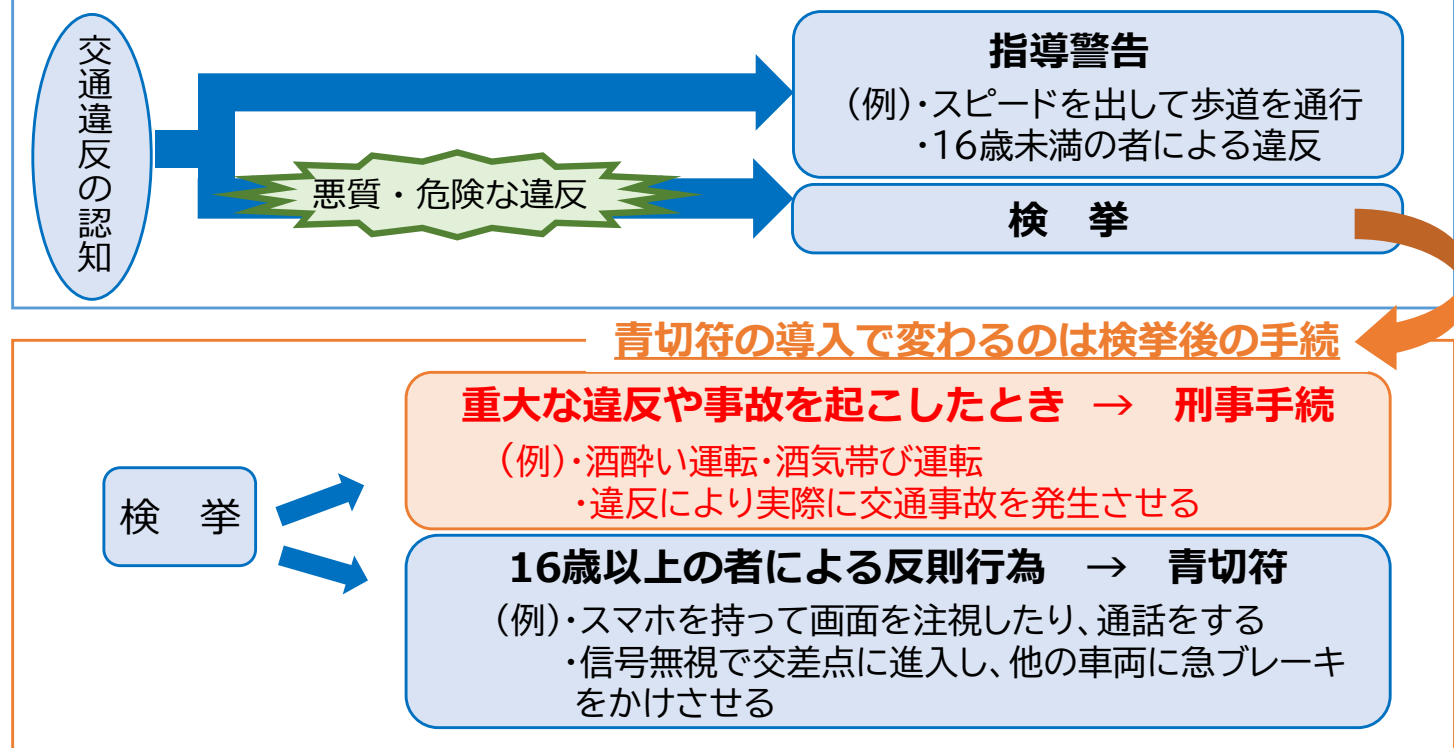
自転車安全利用五則

- 1 車道が原則、左側を通行
歩道は例外、歩行者を優先
- 2 交差点では信号と一時停止
を守って、安全確認
- 3 夜間はライトを点灯
- 4 飲酒運転は禁止
- 5 ヘルメットを着用

➡ 五則に基づく基本的ルール、
違反した場合における危険性
等を解説

自転車の指導取締りの基本的な考え方

自転車の指導取締りの基本的な考え方 → 青切符の導入前後で変わらず



自転車の指導取締りの基本的な考え方

- 自転車の交通違反を認知した場合、基本的には現場で指導警告を実施
- ただし、その違反が交通事故の原因となるような、歩行者や他の車両にとって、危険性・迷惑性が高い悪質・危険な違反（「違反自体が悪質・危険なもの」①・②、「違反態様が悪質・危険なもの」③・④・⑤）であるときは検挙の対象
- 指導取締りは、自転車の交通違反と交通事故の防止が必要であるとして各警察署が指定した「自転車指導啓発重点地区・路線」等で、事故が多い朝の通勤・通学時間帯や日没前後の薄暗い時間帯を中心に重点的に実施

違反自体が悪質・危険なもの

* 以下に記載している交通違反は例であり、これら以外の違反でも検挙の対象となり得ます。

① 刑事手続によって処理される重大な違反

〔検挙（刑事手続により処理）〕

（例）



飲酒運転



あおり運転

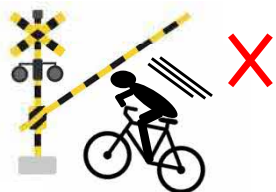


ながらスマホで道路における危険を生じさせた場合

② 反則行為の中でも、重大な事故につながるおそれが高い違反

〔検挙（青切符が交付され、反則金を納付すれば手続終了）〕

（例）



遮断踏切立入り



自転車制動装置不良



ながらスマホ

違反態様が悪質・危険なもの

* 以下に記載している交通違反は例であり、これら以外の違反でも検挙の対象となり得ます。

③ 違反により実際に交通事故を発生させたとき

〔検挙（刑事手続により処理）〕

（例）



ハンドルから手を離して自転車運転した結果、歩行者と衝突したとき

④ 違反の結果、実際に交通への危険を生じさせたり、事故の危険が高まっているとき

〔検挙（青切符が交付され、反則金を納付すれば手続終了）〕

（例）



信号無視で交差点に進入し、青信号で進行している車両に急ブレーキをかけさせたとき



傘を差しながら一時不停止をしたとき

⑤ 違反であることについて指導警告されているにもかかわらず、あえて違反を行ったとき

〔検挙（青切符が交付され、反則金を納付すれば手続終了）〕

（例）



警察官による指導警告に従わず、右側通行を継続したとき



前方に指導取締りを行っている警察官の姿を認めながら、それを気にすることなく、指導警告のいとまもなく信号無視をしたとき